○第1回・第2回審議会における委員からの主な御意見

■出会い・結婚期

	意　　見
1	学生と接していて独身を希望する人や、少子化に対する危機感を持たない人が多いと感じる。
2	学生が子どもを持ちたいと思わないのは、困っている親の姿を見ているからではないか。
3	赤ちゃんサロンにおいて、父親は一人もいなかった事例を実感し、男性育休をとりやすい環境になればと感じる。
4	保護者にとって子育てに関する相談相手が少なくなっている要因は、3世代で同居している世帯が少ないのが原因ではないか。

■妊娠・出産期

	意　　見
1	第1子を出産する方においては、親になることがどういうことかを学ぶ機会が少ない。
2	お母さんが余裕を持って、第1子から子育てを楽しめる雰囲気を創っていくことが大事。
3	不妊治療は女性の問題と捉えられがち。不妊治療に対する周囲の理解はまだまだと感じる。

■保育・幼児教育期

	意　　見
1	子どもを預けやすくしていくことが保護者の働きやすさにつながる。
2	病児保育は必要で、既存の保育施設を活用して実施できるよう、支援の拡充を期待する。
3	京都府としてワーク・ライフ・バランスや多様な働き方を推進する中で、関係者として、働き方改革が最も遅れる業界の1つが保育所・認定こども園・幼稚園だと危惧している。保育所・認定こども園や幼稚園でも働き方改革を支援してほしい。
4	保育士が勤務上余裕がないことの一因は記録等の書類作成業務が多すぎることが上げられるため、もっと簡素化すべきではないかと感じる

■子育て期

	意　　見
1	人に助けを求めたり、人の役に立ったりする人と人とのコミュニティを育むという関係が大切。
2	地域の絆が非常に薄くなっている地域も多く、地域の中で子どもたちが、子どもたちだけで遊びに没頭できる環境が少なくなっており、こうした部分で京都府の色が出せないか。
3	発達障害をもった子どもへの支援が重要
4	社会的養護を必要とする子どもをどのような環境で助けるか考えるべき。
5	子育て家庭の支援は、時間がある人、経験がある人を活用・マッチングしていくべき。

■意識・行動変革

	意　　見
1	本計画は少子化に本格的に取り組む京都府のキャッチフレーズを打ち出すものとして有効だと考えられる。
2	「楽しさ」がないと行動につながっていかないと考えるので、計画には「子育てが楽しい」と思ってもらえるメッセージを込めるべき。
3	事業所や法人それぞれ自らが、日本一のサービスを提供する気概をもって行動することが、子育て環境日本一につながる。